

ここまでわかったボケる人とボケない人

医学博士 湘南長寿円病院長 フレディ松川著

ボケは年齢とともに進んで当然の病気である。ボケるのとボケないのは、ボケる人とボケない人の

ボケが火事だとすれば初期消火に失敗すると、どんどん火は燃え盛るのである。初期の消火活動は非常に大切である。

ボケには初期、中期、後期とあり、中期になると手に負えないような問題行動を起こすようになる。

老人には頭を使うチャンスを与えることが大切である。台所仕事が良い。味覚、触覚、臭覚などあらゆる感覚を総動員できるし、材料の吟味、調味料の分量、盛り付けなどかなり考えなければならない。親をボケさせたくなかったら親不孝な息子夫婦になって親をこき使う事である。

認知能力の低下がボケの正体である。…認知能力が衰えて日常生活を円滑に送れなくなった状態を痴呆というのである。例えば食事をしたばかりなのに「ごはん、まだか」という人の認知能力は0に近い。認知能力が衰えるということは日常生活を円滑に送れないという事である。

ボケる職業の第一位は「公務員」・・・若い時から欲望を持ち続けている政治家はボケになりにくい。上から言われた事を忠実にやっていたらよい公務員はリタイアするとボケになりやすい。第2位が学校の教師である。古文、歴史、地理などの先生は毎年教えることが同じであるから進歩発展がないのである。数学、物理、化学を担当したという先生にはボケが少ない。公務員の例でわかるように、大過なく、つつがなく、リタイアすればボケやすいのである。それに比べて今のサラリーマンはまさに嵐のなかで日々戦っている。波乱万丈の人生を送らざるを得ないのが現状であろう。これが実は将来のボケ予防になっているのである。上司のいいつけをしっかりと守ってそつなく定年まで勤めあげた真面目な勤勉なサラリーマンが将来ボケやすいのである。

*事務職、要注意。営業マン、ボケ知らず。・・・リタイアしたサラリーマンを分析してみると若い時から営業の第一線で働いてきた人にはボケが少ない。人事、経理、総務などいわゆる内勤で働いていた人のほう

*几帳面な性格の人、真面目な人はボケやすい。

まじめな人は融通が利かないという欠点がある。定年になって戻ってきた地域はそんなに几帳面には生きられないのである。

*極楽トンボはボケ知らず…基本的に楽観主義者である。なにか事件に遭遇しても、つねにいいほう、いいほうに解釈する。そのため、老後も多くの人に好かれて楽しく暮らせるのである。老後に人に好かれるということはボケ防止という観点からみれば孤独でいるより、はるかに恵まれているのである。

*よく笑う人、面白い人はボケない。・・・「笑う門には福来る」おもしろい人のまわりには楽しいから人がよく集まるし人気者である。ボケるボケないというのは、その人が豊かな感情をもっているか否かにかかっているのである。ボケた人には感情の起伏がない。自分の感情を表にださないのである。

*服装に気を配ったりして、異性に興味を示すような人はボケないのである。こういう老人が増えればボケ老人の数は激減するかもしれない。現在、出会い系サイトを使いこなしている今の若者が老人になってからは、きっとボケ老人が激減するであろうと。

